

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
平成 27 年度 第 5 回理事会 議事録

- 1.開催日時 平成 27 年 11 月 9 日 午後 6:35～午後 8:45
- 2.開催場所 中央大学理工学部後楽園キャンパス 3 号館 10 階 31000 会議室
- 3.理事総数 15 名
- 4.出席者数 6 名（書面表決書 5 名）
出席者（宇佐美彰朗、保原幸夫、吉村豊、岩山海渡、小林均、比嘉正樹 敬称略）
書面表決書（山西哲郎、森川貞男、前河洋一、鈴木良雄、黒田伸 敬称略）
- 5.議長選任 議長として宇佐美彰朗氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

第 1 号議案 前回理事会（9 月 14 日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったため承認されたものとする旨報告があった。

第 2 号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として吉村豊氏と比嘉正樹氏が選出された。

第 3 号議案 2015 メルボルンマラソンについて
保原氏より、現地での活動状況について報告があった。

- 最終的な申込者数は JSIE 関係者を含め 97 名となったが、実際の参加者は 88 名だった。今年の新しい展開は、現地在住の日本人の方がボランティアとして手伝ってくれた点で、主婦の方が 1 名、留学中の方が 5 名であった。
昨年に関西外語大学に加えて、同志社大学、玉川大学もこの時期に留学していることが分かったので、来年のプロモーション活動に活かしていきたい。
- モーニングラン、ブレイクファスト BBQ は 20 名以上の参加があり、昨年を上回り、好評だった。
- 大会自体がサポートしている脳性麻痺の子どもたちのトレーニングセンター（CPEC）へは群馬の大滝医師ファミリーおよび埼玉大学の中下教授と共に訪問し、トレーニングの実際を見学した。
協会からは 1,000 ドルを寄付したので、参加者の皆さんから寄付して頂いた 703.36 ドルとの差額については、協力していただける理事の皆さんからは 3000 円ずつ徴集させていただくことになった。
- 大会後の 1 泊 2 日ヤラバレーツアーには、宇佐美ランニング教室関係者 4 名、森川氏紹介の参加者 3 名が参加し、十分に楽しんでいただいた。

第4号議案

各種ランニング教室について

保原氏より実施状況について報告があった。

■ J S I E マラソン完走教室

マラソンシーズンに入った10月になっても毎回参加者が1～3名程度で、新規の人が減っている状況が続いている。募集方法等を検討する必要がある。

■ 熟年ランニングスクール

参加者は10人だが、毎回、参加者は8人を上回り参加率は高く、皆さん積極的に取り組んでいる。

■ 浦安・美走塾

下期分が10月24日(土)に始まった。下期は教育委員会からの要請もあり、従来の富岡小学校に加え、隣の見明川小学校でも実施することになったため、参加者は60名を超えている。講師は菅原氏にお願いしている。

第5号議案

第6回国際交流駅伝について

保原氏より進捗状況について説明があり、集客方法等について審議した。

■ 集客

10月下旬から、ランネット、スポーツエントリー、ランニングタウンで募集を開始した。今年は”国際交流”の名にふさわしい大会にするために外国人参加を増やしたいと思っており、大使館チームの勧誘に積極的に取り組むことにする。これまでの、オーストラリアに加え、エチオピア、ケニア、ウガンダといったアフリカ諸国に参加をお願いする予定である。

各大学には多くの留学生が在籍しているので、積極的に勧誘する事になった。

第6号議案

第8回市民ランナー交流セミナーについて

保原氏より素案の説明があり、課題について審議した。

■ 国際フォーラム会場 (2月27日(土))

昨年実施した東京海洋大学の他、東京大学、日本大学、中央大学に会場借用について打診したところ、東京海洋大学および東京大学から可能である旨回答があった。

会場使用料、懇親会の飲食物手配の関係から、本年度は東京大学で行うことになった。

詳細については、今後、池上氏と相談の上決定する。

■ 東京マラソン完走パーティ (2月28日(日)) のタイトル

山西理事長に確認していただいたが、”東京マラソン”を使うのはダメということになった。スポンサーである大塚製薬に協賛していただければ可能性があるのではないかとということで打診していただいたが、良い回答は得られなかった。

したがって、タイトルとしては「国際交流パーティ」ということにする。

■ 国際交流パーティ会場

参加費を5,000円以下にするという観点から、候補としてあげている「グランドアーク半蔵門」と折衝中である。通常、7,400円のパーティプランを7,000円にしてくれるという話はいただいているが、いろいろな条件を提示して折衝してみる。

その結果を受けて、岩山氏提案の貸しホール+ケータリングを検討する。

日本的な居酒屋ではという意見もあったが、今回の趣旨であるプレゼンや郷土芸能披露をするためにはステージが必要となるので、その条件には合致しない。

■ 基調講演

当初予定のスポーツツーリズム機構に依頼するが、代替案として鈴木大地スポーツ庁長官、ミズノの水野会長などにも打診してみることになった。

鈴木氏については山西理事長に、水野氏については黒田氏にお願いすることになった。

■ 募集方法

2日目の国際交流パーティについては、facebook等のSNSで情報発信する事になるので、チラシができれば外国語に翻訳する必要があるが、スペイン語とポルトガル語については小林氏のついで、フランス語については保原氏のついでできそうだとの話があった。

第6号議案

その他

■ トスカーナキャンプ体験ツアー（保原）

10月23日(金)午前中に来日中の杉田さんと打合せを実施。来年3月下旬に森川氏と保原氏が視察旅行をする事になった。その際、キャンプのジャンローニ氏と体験プログラムについて打合せをする。第1回ツアーは9月下旬に実施し、山西理事長が同行することになった。

■ 孫基禎記念平和マラソン（小林）

日程が10月25日(日)から11月22日(日)に、コースもスタート・ゴールをオリンピックスタジアムとするコースに変更になった。

小林氏が視察を兼ねて参加するので、その結果を踏まえて、来年度以降は日本からのツアーも実施する方向で検討する。

■ 東北復興駅伝共走交流大会 2015 福島版（山西）

10月24日(土)～25日(日)の2日間で、いわき市陸上競技場スタート、福島県庁前ゴールで実施する予定だったが、諸般の事情で来年5月に延期することになった。

主催は本大会実行委員会とし、当協会は後援という立場である。

■ 駅伝の国際化について（比嘉）

国民的スポーツである駅伝の国際化を図るために、2020年の東京オリンピックの種目とするための活動を展開したいとの説明があった。

そのためには、「チームワークや和を重要視する駅伝は国際平和に貢献する」などの趣旨を明確にする必要があるのではないか、まずは国際駅伝連盟等を結成する必要があるのではないか等の意見が出されたが、そのためにも公開競技でも良いからオリンピック種目にすることが効果的だろうということになった。

今後、比嘉氏が活動手順、スケジュールを作成するので、協会として協力することになった。

■ 次回理事会について


次回理事会は山西理事長の都合を確認して、12月4日(金)、7日(月)のいずれかの日に実施することになった。


以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時45分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

平成 27 年 11 月 9 日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長 宇佐美 彰朗 

議事録署名人 吉野 豊 

議事録署名人 比嘉 正樹 